

北電自由料金も値上げ

オール電化など、11%、12%

来年4月から

北陸電力(富山市)は十四日、オール電化家庭や企業・法人向けを含む「自由料金」を来年四月一日に値上げすると発表した。ウチライナ特約や田安に伴う燃料価格の高騰で業績が悪化しているが主な理由。北電のモデルケースでは、家庭向けの値上げ幅は11%になり、家庭向けの顧客約百十五万のうち、過半数に当たる約六十万件が対象となる。福井県内は一般家庭約二十五万のうち対象は約十五万件。

県内の対象家庭15万件

オール電化家庭向けに、企業向けの高圧・特別高圧も含めると、計約八十三万件(県内は約二十万件)が今回値上げされる。オール電化家庭向けの「くつきナイト12」(月間使用量七百五十キロワット)の場合、一月当たり二千七百八十二円増の二万七千六百十四円となる。

政府が来年一月の使用分から導入する電気料金の負担軽減策を反映し、さらに四月に実施予定の送配電網の利用率(託送料金)の引き上げを加味すると、料金は四千三百二十円抑えられ、実質的には千五百二十円となる。

八円の値下げとなる見込み。

企業向けの高圧・特別高圧のモデルでは、商業施設(月間使用量十二万五千ワット)の場合、一月当たり23%増の約四百六十六万円、大規模工場(月間使用量百二十万ワット)では24%増の約三千九百四十八万円となる。

電気料金には、電力会社の設備や設定できる自由料金と、国の認可が必要な家庭向けを含む「規制料金」がある。自由料金は規制料金と違い、燃料価格の変動を電気料金に転嫁する園の

燃料費調整制度で上昇させてくる上限がなく、上昇分を既に一定程度、料金に反映させていたため、比較的小幅な値上げとなった。本店で記者会見した松田光司社長は「お客さまには負担をおかけし、大変心苦しい限りだが、当社の経営状況を理解いただければ、意を尽くして説明したい」と述べた。規制料金については十一月末に平均45・84%の値上げを国に申請し、同じく来年四月の実施を目指している。北電は二〇一三年三下期の連結決算で純損益が九百億円の赤字(前期は六百八億円の赤字)と、過去最大となる見通し。志賀原発の停止が続く中、発電量の約七割を石炭火力発電所に頼り、石炭価格の記録的な高騰が収益を圧迫している。

顧客向け説明会開催へ

北陸電力は十四日、家庭向け電気料金の値上げに関する顧客説明会を北陸エリアの約三十会場で六十回程度、開催すると発表した。第一回は二十一日午前十一時～十二時で、県内では県産業会館(福井市)で開催。説明会の日時や会場、申込期間、定員などは、**21日に県産業会館で** 詳細は北電の公式ホームページの「お客さま説明会」案内ページで閲覧できる。申し込みが多かった場合、追加開催を検討する。申し込みは年末年始を除く午前九時～午後六時に専用ダイヤル(0120)012433へ。

北陸電力の主な家庭向け自由料金のモデルケース

従量電灯ネクスト	350kWh時	12,531円	14,021円	1,490円(12%)
使っておくとライト	550kWh時	19,592円	21,650円	2,058円(11%)
くつろぎナイト12	750kWh時	24,282円	27,064円	2,782円(11%)



自由料金の値上げを発表し、記者会見する北陸電力の松田社長(14日、富山市の北陸電力本店で)

「意を尽くして説明」

北陸電力の松田光司社長の記者会見での主なやり取りは次の通り。

― 物価高の最中で、オール電化家庭や企業活動への影響は大変大きい。値上げをどう受け止めるか。

― 主力電源である石炭の急騰が大きい。短い期間で値上げが続いて大変心苦しいが、全てのお客さまに理解いただくべく、意を尽くして説明する。燃料料金も含めた値

北電・松田社長

― 自由料金の値上げは、燃料価格の変動を電気料金に転嫁する園の上げにより二千億程度の収益を期待しており、さらなる経費効率化を進めていく。今回の料金改定では志賀原発の稼働を二頭、織り込んでいる。再稼働の見通しが立たない中で、矛盾していないか。

― 電源構成に占める原子力の比率はこれまで「割られた」が、今回の改定では約30%を見込む。(原子力規制委員会での審査が続いており、抽

元の下解も必要で、いつ再稼働できるという見通しは立たないが、審査が最大限、順調に進むと見込み、織り込んだ。電源構成で原子力を一定程度、組み込むことで、値上げを抑制する効果もある。― 法人顧客への今後の営業戦略は。

― 電気料金の値上げは産業界にもインパクトを与える。料金だけでなく、サービスも合わせて総合的にお客さまに選択していただければ「エネルギーパートナー」を目指して、営業活動を展開したい。